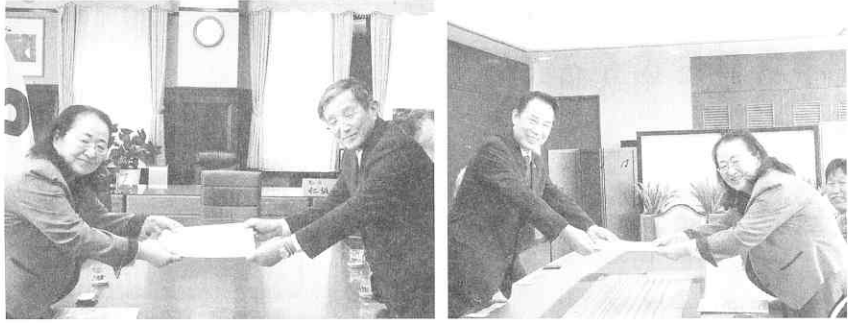


和歌山「全女」にむけ、 全国の仲間と全女活を

全女に向け 県と市に協力要請

部落解放第63回全国女性集会在5月12日、13日の2日間、和歌山市内でひらかれるにあたり、昨年12月18日に山崎鈴子・中央女性運動部長をはじめ、山本昌代・女性対策部長、藤本哲史・執行委員長、宮本修・作書記長が、仁坂吉伸・和歌山県知事と尾花正啓・和歌山市長に協力要請をおこなった。

全女がひらかれるにあたり、第1回全国女性活動者会議が2月4日、5日和歌山市にあるダイワロイネットホテルでひらかれる。



山崎中央女性運動部長から協力を要請した(左:仁坂知事、右:尾花和歌山市長)



◆全女活日程◆

- 2月4日(日)
 - 13:00 開会
 - ・第63回全国女性集会について
 - ・旅行社より宿泊等の説明
 - 14:30 休憩
 - 14:40 各都府県連報告
 - 16:40 「男女共同参画」審議会委員の報告
 - 17:40 終了
 - 2月5日(月)
 - 9:00 学習会「和歌山の部落解放運動と『部落差別解消推進法』の成立にかかわって…」
 - 10:30 質疑・応答
 - 11:00 まとめ・閉会
- 宿泊・会場 ダイワロイネットホテル和歌山
和歌山市七番丁26-1 Tel.073-435-0055

被告側の主張、 暗礁に乗りあげたか

東京地方裁判所で12月25日、「鳥取ループ(示現舎)」にたいする第7回公判がひらかれた。公判では、原告側より「陳述書」が提出されると同時に、陳述書に記されている個人情報情報については、被告側がネット上に公開しないよう警告を「同和对策事業で建てられ

和歌山市調整委員会 ひらかれる

第3回目の和歌山市障害者差別解消調整委員会が10月30日、和歌山市保健所でひらかれ、和歌山市ブロックから2人が参加した。

会議では、新規事業の報告と障害者支援課がおこなった相談事例について議論された。相談事例の検討では、委員からさまざまな意見がだされるなか、和歌山市ブロック選出委員から「相談事例から、どこに差別があるのか議論を」と意見がだ

たものが取り壊されていることや用途が変更されていることなど、政治的な例をあげて「同和对策は必要なかった」「解放同盟が部落問題を温存してきた」と主張し、原告と被告の主張がかみ合わない状態となった。今後の裁判闘争としては、証人喚問の準備と陳述書の整理・作成を2月末までに終え、3月12日の第8回公判にのぞむ。

された。ひとつひとつの事例のどこに差別があるのかという議論では、こういった相談が和歌山市に寄せられる背景を考えると、相談者ら双方のどちらかに差別があるのではなく、そういった社会に差別があることをしっかりと受け止め、和歌山市の施策に大きく反映してほしいとの意見もあり、有意義な会議となった。

北山誠一を偲んで

3

北山誠一元県連書記長の連載3回目になる。その年、父・良一が逝去している。

支部長に就任した北山は、日々、多くの先輩や友人たちと部落解放運動や北山の未来を語り合い、実践していった。また、北山が支部長に就任する前年「信太山自衛隊差別事件」が起きていた。隣の広川町出身の自衛隊員が隊内で差別をうけたのだ。本格的な糾弾闘争は、御坊市の柳岡市次郎を県共闘会議議長に大阪府連と連けいしてのとりくみがおこなわれ、1965年、昭和40年に内閣同和对策審議会から答申がだされ、全国で答申具体化の行動が展開されたが、湯浅では、北山が中心になって「同対審答完全実施国民運動・湯浅町実行委員会」を結成し、県内網の目行動をおこなった。

しかし、この頃に県内の部落解放運動は、特定政党の組織介入によって歪められ、混乱の時期に突入していったのであった。

(次号につづく)